

# 「患者さんの話を真摯に聞くことの 大切さを、山の診療活動で強く実感。」

奥穂高岳夏山診療所で2年にわたって学生代表の大班長を務めた永瀬裕一朗さん。

もともと登山が好きだったことが動機で参加した4回の診療活動を通して、

患者さんの表情を見て、話を聞くことの重要性を再確認した。

将来は診察から治療まで、一貫して患者さんに寄り添える医師を目指す。



▲コンロに置いた熱々の平たい石の上で肉や野菜を焼いて食べる「石焼」は診療所の名物料理。

◀岩稜に立つ穂高岳山荘。夏山診療所は、山荘の一角にある冬季避難小屋を無償提供してもらい、利用している。



▲診療所から絶景を望む。「1年目にみた夕日の景色は今でも印象に残っています」と永瀬さん。

山上ならではの朝日、夕日、満天の星空。  
感動的な景色を後輩たちにも見せたい。

診療所の生活は山時間。日の出とともに一日が始まる。

夏山診療所への参加は2年生からで、今年で4回目になりました。もともと父の影響で登山が好きだったので、参加の動機は山に登れるということが大きかったですね。それと患者さんの話を真摯に聞ける医師を目指していた中で、普段は触れ合う機会の少ない患者さんと関われる点も魅力でした。診療所での学生の役割は問診や体温、血圧などの測定です。ところが1年目は患者さんが来なかったため、翌年も参加しようと決めたところ、大班長に任命されました。

大班長の仕事は参加者の募集に始まり、班の編成、食事に必要な調味料や備品の購入、さらに診療所が所有する登山道具の修理や買い替えなどです。先輩からは「こんな感じでやればいいよ」と大まかな伝達を受けましたが、実際に作業を始めてみると内容が膨大で(笑)。何とか一人でこなしましたが、今年は参加人数が多くなったこともあり、大班長を2人に増やしてマニュアルを作って引き継ぎました。うまく運営してくれたので、正確に伝えられたと感じています。

患者さんの話を聞くことが、今の自分の大きなテーマ。

患者さんの約7割は高山病です。下界の病院では高山病の方を診察することはないので、良い経験になります。また、山では電気が十分に使えず検査ができないので、目で見て、手で触ってという身体診察が基本です。先生方がどのように考えて対処されているかを間近で見られることは、本当に勉強になります。山での診療活動を通して患者さんの声に耳を傾け、何をしてほしいのかを正確に把握して対応できる医師になる、という考えが強まりました。現時点ではまだ専門を絞れていませんが、診療から治療まで一貫して行える診療科への関心が強いです。

来年の参加はまだ未定ですが、これまでの経験を後輩に伝えたいですし、山でしか味わえない感動的な景色を見るためにまた登りたくなるかもしれません。

奥穂高岳夏山診療所  
学生ボランティア(平成23~26年度参加)

**永瀬 裕一朗 さん**  
岐阜大学医学部 医学科5年



## 夏山診療所の日

| 21:00 | 17:00 | 13:00                                                             | 12:00 | 8:00   | 6:00 | 5:30     | 5:00      |
|-------|-------|-------------------------------------------------------------------|-------|--------|------|----------|-----------|
| 就寝    | 夕食    | 診療活動。急患や患者の容体急変のため、診療所は基本的に24時間体制。                                | 昼食    | 掃除・片付け | 朝食   | 朝のティータイム | 日の出とともに起床 |
|       |       | 午前中は登山者と下山者の移動時間になるため患者はほとんど来ない。天候が良ければ周辺の山へ出掛ける。天候が悪ければ診療所内で過ごす。 |       |        |      |          |           |

## 岐阜大学医学部 奥穂高岳夏山診療所

奥穂高岳山頂直下、海拔約3,000mの雲上にある岐阜大学医学部の診療所。周辺で発生した心身トラブルへの対処を目的に、岐阜県立医科大学時代の昭和33年7月に開設。穂高岳山荘創始者で名ガイドだった故今田重太郎氏の冬季避難小屋を利用している。平成7年の改築を経て、北アルプス随一の広さを誇る診療施設になった。開設期間は7月20日頃から8月20日頃までで、診療班は医師2人、看護師1人、学生4人からなり、全7~8班が4日間交替で診療活動を行う。平成26年で57回目を数え、岐阜大学の重要な社会貢献事業の一つになっている。



▲1班から順に記入する診療所日記は製本して参加者全員に渡される。

### 平成25年度 診療記録

|           |     |
|-----------|-----|
| 高山病 (AMS) | 30人 |
| 下肢損傷      | 10人 |
| 上肢損傷      | 9人  |
| 感冒・上気道炎   | 6人  |
| 頭部損傷      | 6人  |
| 下肢関節痛     | 5人  |
| 虫刺症       | 4人  |
| その他       | 11人 |
| 計         | 81人 |

※患者1人に複数の疾患がある事例を含める



▲診療所では、体温や血圧などの患者のバイタルチェックは主に学生が担当。その中のひとつ、脈拍数と血中酸素濃度を計測するためにはパルスオキシメータを使う。

